



竹松ものがたり

やさしく かしく たくましく

令和6年7月5日
大村市立竹松小学校
発行 石司 貴弘

竹松っ子の心を見つめる教育週間 ご参観 ありがとうございます

学校での学びの様子を見ていただき、大人みんなで子どもたちの「よさや課題」を互いに確認して、よりよい育ちにつなげていくことが目的です。教師や仲間とともに真剣に学習に取り組む子どもがいる一方、なかなか意欲がわかず、学習活動が滞る子どももいます。



学級担任をはじめ、竹松小学校の職員は、

☆子どもたちが意欲を抱くような学習の題材を用意する

☆教師による一方的な「教え込み」ではなく、自力で解決させたり、話し合いをさせたりなど主体的に学べるような場面を取り入れる

☆子どもが頑張っていることを適切に称賛する ☆困難な場面で励ましを続ける

といった学習支援を繰り返しています。公開週間ではそれらの一端を見ていただくことができました。



「ぼくの考えは…」どうやって解決したのか、友達がわかるように説明しています。聞く方も興味津々です。



多様な感じ方、考え方があります。多くの子どもを指名して、思いを伝えあいます。自分の考えと比べ、友達と互いに学びを深めます。



自分の考えを文章で表現し、担任に伝えます。担任はそのよさを認めつつ、さらに深めてほしいことなどを授けます。

週間中にはたくさんの保護者様、地域の皆様に来校いただきました。保護者の皆様が真剣に授業の様子を見ていただくことで、子どもたちは自分が「愛されていること・大切にされていること」を実感します。あらためて子どもを育てるためには、保護者・地域・学校が連携していくことが大切であると感じました。

また、教室や廊下で職員や子どもたちに対して、笑顔でさわやかにあいさつをしてくださる保護者の方に出会いました。これこそ最高の手本だと思うのです。子どもに「あいさつをなさい!」と100回言うよりも、やって見せた方がずっと効果がありますよね。私たちもこのような手本となれるよう取り組んでいきたいと思えます。

今年度の教育週間において、お気づきになったこと・ご意見・ご感想などがありましたら、学校にお寄せいただければ幸いです。子どもたちの安全を優先し、暑い中に徒歩での来校にご協力をいただきましたこと、お礼を申し上げます。どうぞ今後ともよろしく願いいたします。

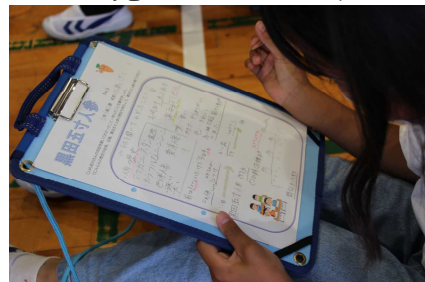
5年生 黒田五寸人参の学習



JAながさき県央の職員さんが、黒田五寸人参の育て方についてお話をしてくださいました。竹松小学校の5年生の総合的な学習のメインとなる学習材です。地域の伝統文化にふれ、自分たちの手で育てる活動を通して、故郷のすばらしさを実感してほしいと考えます。

土づくりや種まき、水やりなど、人参を育てるにはとても大変な作業が続きます。職員さんはイラストや写真をたくさん見せてくださって、とても

ていねいに教えてくださいました。職員さんの話に真剣に聞き入る5年生の姿が実に素晴らしい。一言も聞き逃すまいと細かくメモを取っています。疑問に思ったことを積極的に質問したり、タブレットを使って自分で調べたりしています。教えていただいたことを生かして、みんなで力を合わせて人参を大切に育てていきます。



～和の心 伝統文化にふれる～ 6年生 茶の湯体験学習



表千家流大村会のみな様をゲストティーチャーとしてお招きし、6年生の子ども達が日本古来の「おもてなしの心」を学びました。

姿勢を正してあいさつをします。心を込めてお茶をたて、いただきます。大切な人をもてなす心と、いただいたことへの感謝の心が通い合います。古くから伝わる作法を、先生方のお手本を見て、実際に体験することができました。



静かな雰囲気の中で少し緊張した。相手のことを大切にすることはどういうことなのか、お茶を入れることにどうつながるのか、もっと調べてみたいと思った。

感謝の気持ちを言葉にして伝えるだけでなく、「お茶」を通して動き(作法)で伝えるというのがすごいと思った。いろいろな場面に生かせると感じた。

子どもたちの感想からも充実した活動であることがよくわかります。

図書ボランティア バンブーのみなさんによる 読み語り



教育週間中の昼休みにバンブーのみなさんが「おはなしタイム」を企画してくださいました。興味を持った子どもたちが体育館にたくさん集まり、お話に聞き入り、大いに楽しんでいました。

すばらしいのはバンブーのみなさんの語りです。お話の世界に入り込み、読む方

ご自身が「読むこと」「語ること」を思いっきり楽しんでおられます。その雰囲気に引き込まれ、子どもたちも絵本の世界に浸っていました。あらためて読み語りの素晴らしさを感じました。ありがとうございました。

